

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271200471		
法人名	医療法人 紫雲会		
事業所名	グループホーム かわたな		
所在地	〒859-3615 長崎県東彼杵郡川棚町下組郷397番地 (電話) (0956) 20 - 6858		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年12月13日	評価確定日	平成20年2月12日

【情報提供票より】(平成 19年 4月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	14人, 非常勤 1人, 常勤換算 9.35人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	2階 ~	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,500 円	37,500 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無		有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.1 歳	最低	75 歳	最高	100 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	本川医院 ・ 長崎神経医療センター ・ 鈴木病院 ・ 本川歯科
---------	---------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営母体は地元の医療機関であり、地域住民に信頼して頂ける医療と福祉の連携を志し、そのもとに、当ホームは開設された。町のほぼ中心部に立地し、徒歩で程近い距離に地域の方が多く利用するスーパーや町役場があるという利便性に優れた恵まれた環境にある。又、1階にはデイサービス施設があるので馴染みの地元住民の行き来があり、その上で2階にある当ホームはテラスからの眺望と、静かさも得られている。扉を開けた瞬間に伝わる明るさは、実際の居住空間の快適さのみならず、利用者の心から寛いだ表情と職員の笑顔と、はつらつとした挨拶によるものであった。利用者が主人公であるという生活への支援を忘れず、開設以来、積極的に不断の努力を続けてこられた地域に向けての取り組みと、提携医療機関の協力や医療連携により、利用者にとって安心できる地域での生活を提供されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価による改善点は特になく、改善計画シートの作成・取り組みはされていない。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全員に表を配布し、項目別にスタッフ会議で話し合うという形で全員で真摯に取り組んでいる。スタッフは自己評価を通して、日々の業務を振り返り、サービスに対する方向性が同じであることを確認する場として、評価の意義を全員がよく理解し活用している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は2ヶ月に1回開催しており、利用者・家族・市町村担当者・民生委員・地域包括支援センター職員・事業所職員が参加メンバーである。利用者の状態報告、ホームの行事等、様々な取り組みの報告と意見交換が活発に行われている。地域との連携を図る為、会議メンバーをホームの夏祭りに招待するなどの理解と交流に向けた働きかけも行っている。評価と会議を一体的に活かし、今後もますますモニター役として、地域との交流促進の場として、会議を活用して頂きたい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会は1年に1回、ホームの夏祭りに参加して頂く機会に開催している。同じく1年に1度、アンケート(無記名)に協力して頂く等、家族の意見をサービスに反映させる取り組みに努力している。退所された利用者の家族とも、親しく話しが出来る関わりを継続しており、今後は一歩離れた家族の立場から、貴重な意見を頂ける機会を設けられる事にも期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	当ホームは、開設当初より地域での生活の為の基盤作りに、真摯に意欲的に取り組んでいる。今後は、地域密着型サービスとして、さらなる地域との継続性を大切にしたい。馴染みの関係を求められている。利用者が入居以前からの地域での生活を続けていく為、近隣の拠点作りから始まる地域の見守りと職員のケアといった、地域とホームの協働を試みていかれる事に期待したい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人一人の能力を活かしたケアと家庭的な雰囲気」を謳った基本理念は、身近な介護理念をという事で職員全員で考えたものである。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所名「かわたな」にかけて、「家庭的で笑いの絶えない」といった分かり易く簡潔なスローガンは、リビング・事務室の目につく場所に掲示されており、申し送り時・月に1回の全体ミーティング・週に1回のユニット別のミーティング時に確認している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入している。地域行事への外出・参加も積極的に行っており、秋の町内文化祭では手芸・文芸の作品を発表し、多くの地域の方との交流を図ることが出来、保育園児から、小・中・高校・専門学校のボランティアまで、幅広い年代の訪問・交流があり利用者も喜ばれている。又、1階にはデイサービス施設があり地域の馴染みの方との交流もある。		十分になされている地域活動への取り組みを、更に充実させる為に、地域との関わりに継続性を持たせるという事を考え、近隣との信頼関係を作り、協力を仰ぐといった今後の取り組みに期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義と活用方法をよく理解し、自己評価は一斉に項目用紙を配布し、気付きを各自で記述した後、項目別に話し合い、全職員で取り組まれた。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催され、利用者・家族・市町村担当者・民生委員・地域包括支援センター職員の参加があり、モニターとしての役目を十分担ってもらっている。運営推進会議では、ホームの取り組みに関する報告や意見交換など活発に行われている。		

グループホーム かわたな

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者が歩いて行ける距離に町役場があり、入居者によっては自分の申請手続きに出向かれる事もある。川棚町にあるグループホーム4事業所で連絡協議会を組織・運営されており、その事務局窓口として、町の担当窓口とも双方向の連絡の機会も多く、役場担当職員の研修・見学の場所としての提供もされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りは毎月発行されており、日常の様子の写真・行事予定の他、個別の近況報告の欄があり、コンパクトに分かり易く伝えられている。毎月の利用料を、なるべくホームへ持って来て頂く様にする事で、家族の面会が多くなるよう配慮し、口頭でも伝えている。電話での連絡も密に行い、良い事、気になる事も全て伝えるようにしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は1年に1回、ホームの夏祭りに参加して頂く機会に開催している。同じく1年に1度、アンケート(無記名)の協力を家族へお願いし、意見の取り入れと対応に努力している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は現場の声を大事にされ、それにより職員が安定し離職率の低下に繋がられている。法人内での異動は極力避け、唯一、ユニット間での異動は職員のバランスや経験などを考慮した上で、入居者へのダメージが最小限となる様に努められている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講演会を企画された時は、講師の方に現場を検証して頂き、指導を仰がれるなど積極的な取り組みで職員の育成もされており、月に2~3回の内部研修も開催している。又、職員の資格取得の為に、試験前の勤務体制の配慮等バックアップもなされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成18年6月に発足した町内4事業所による連絡協議会では、当ホームの運営者が会長となっている。三ヶ月に1回の定例会では活発な意見交換が行われ、職員の相互研修は職員にとって有意義なものであり、小規模の連絡協議会ならではの機動力で、サービスの質の向上に向けた協力が図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>サービス利用開始の際には、見学・家庭訪問等を行い、利用者に納得し馴染んで頂けるような支援に心がけている。ショートステイからの移行はスムーズな利用開始が出来る。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>料理に関しては下拵えの方法などを教えて頂いたり、生け花クラブでは花の名前を教えて頂いたり職員は利用者学ぶ場面も多く感謝している。「婦人会」になぞらえる利用者間の話し合いは活発で、職員はそこから生まれるアイデアと自主性を尊重し、意欲につなげる協力と見守りをしている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常のコミュニケーションの中から思いや意向を聞きだし、利用者の状況を踏まえて、可能性やニーズ、潜在性などに配慮した介護計画の作成に努められている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプランの見直し時は、ミーティングに参加した利用者・家族の意向を取り入れられている。又、入居者の現状に即した見直しで、入居者のあるべき姿に近づく支援、サービスの提供に努められている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>担当者ミーティングにおいてケアプランに対するモニタリングと評価を実施し、必要に応じ見直しを行っている。事務室のカレンダー傍にケアプランに関する入居者別期間一覧表が見やすく貼られている。</p>		

グループホーム かわたな

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームのショートステイサービスの利用から入居へと移行された入居者もいらっしゃる。町の文化祭の時、「認知症ケア」に関する講演会をチラシ配布で広報活動したところ、予想以上の参加者があり開催関係者の満足・自信に繋がっている。又、参加者からの問い合わせや相談件数も増え、地域へ向けたホームの多機能性の発信・提供がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望に沿った医療機関への受診支援を行っている。かかりつけ医とホームの提携医療機関との申し送りノートを作成する等の連携がしっかりとされており、本人・家族に安心を与える支援がなされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族の希望と、かかりつけ医との医療連携において方針の統一化を図っている。又、医療連携をとりつつケアできる範囲内で看取りの希望に対応する方針である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	年長者に対する丁寧な言葉使い、対応がなされている。「言葉」に対する配慮は職員ミーティングでも検討し、見直しを行っている。記録等の書類は事務室にてきちんと管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、居間で寛がれる方、食事の準備を手伝いながら、職員や他利用者と会話を楽しめる方、居家で休まれる方と意思思い自由に過ごされることを尊重している。		

グループホーム かわたな

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介助が必要な利用者もいるが、職員も和やかな会話をしながら、共に食事を摂っている。誕生日には、リクエストによる献立となり、本人はもとより他の利用者も楽しみにしている。鍋物・ホットプレートを使った卓上での調理を伴った食事では、利用者一人一人が出来る範囲で手伝ったり声をかけたりと、家庭的な雰囲気を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	清潔保持と心身リラックスの場として、希望に沿って毎日入浴が出来るよう支援している。職員は言葉かけや対応に配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	大工をされていた利用者の手作りの棚が、ホームの玄関等で活用されている。職員の子供にピアノのレッスンをされたり、町の文化祭で川柳を発表されるなど、利用者の生活歴・職歴・趣味などを活かして頂く支援が出来ている事で、利用者は豊かで活気のある日々を送っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	徒歩が可能な利用者は、すぐ近所のスーパーへ出かける機会も多く、美容室へ行きたいと言われる利用者への支援もしている。又、利用者の顔色・バイタルサインなど見計らい、利用者と一緒に楽しみながら支援している。外出されない利用者には、町並みが広がる広いデッキで外気浴を楽しんで頂く事もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、鍵は掛けられておらず、利用者が外出されるような時は職員が配慮をもって見守る支援がなされている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は地域消防団協力のもと、年2回行われている。記録は実際の訓練の様子を写真で残す事で、その後も振り返りがしやすい。最重要持ち出し品は、個人記録に写真を添えたファイルとし、持ち出し用の手提げ袋も、すぐ傍に用意する周到な配慮、準備がなされている。	○	より万全に、訓練の充実を図るべく、ネットワークのある4事業所・市町村との連携体制や、火災以外の災害時に対するマニュアル作成などの取り組みが期待される。

グループホーム かわたな

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は地域の栄養士によりチェックされており、形態食の対応もなされている。摂取量・水分量の把握は個別記録により出来ている。水分摂取に関しては三食時・午前・午後と努めて摂って頂けるよう配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の一段高い畳の空間は、各ユニットの状況に応じてクリスマス会等の時のステージとして利用したり、利用者の好みでコタツが置かれたりと工夫して利用されている。共用空間内は換気もよく、掃除も行き届き、利用者の視線を意識した掲示の仕方等の配慮がある。季節感のある飾り付けや花が、各所に飾られているが、華美や幼稚な印象はなく落ち着いた雰囲気である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には、利用者一人一人の手作りの暖簾がかかれ温かな個性が感じられる。持ち込みの馴染みの物は多く、家具小物の他、趣味の楽器を置かれている方もおられる。服のかけ方、部屋の片隅にあるホウキ等、その人らしさが十分に感じられる居室作りへの支援がなされている。		